

## 令和7年9月15日(月・祝日)樹木診断会 報告

場所:磯辺西住宅

住所:千葉市美浜区磯辺6-6

5階建て13棟 築46年(築年月:1979年3月) 340戸



ご参考前回2022(令和4)年7月の樹木診断会:「磯辺西住宅管理組合(PDF:8,138KB)」

## 樹木診断の希望内容

敷地内の桜の状況を診て、対応などについてアドバイスを  
いただきたい。(上図:敷地内樹木調査表に見ていただきたい箇所)

ご参考:過去の樹木診断会情報「ふるさとのみどり」の掲載記録

[第36号\(PDF:3,849KB\)\(2016\)平成28年3月発行](#)  
[第30号\(PDF:983KB\)\(2010\)平成22年3月発行](#)  
[第28号\(PDF:711KB\)\(2008\)平成20年3月発行](#)

## 樹木診断の流れ:

9:00に集会所に集まっていたり、主催者の説明と当協議会および樹木医大矢先生の挨拶後に、実際に敷地内をまわり、都度アドバイスや説明の後、集会所に戻り質疑と全体の総評をいただき11:30に終了しました。  
参加者は、居住者15名の他、植栽管理業者および近隣の当協議会役員と先生で計20名となりました。

事前に参考資料として千葉県さくらの会発行の冊子の紹介が事務局よりあった。「[さくらの植樹と管理\(PDF:2,888KB\)](#)」

## 樹木診断会の様子



## ←地衣類:

菌類と藻類とが共生して一体となっている植物で、藻類が光合成をする。  
キノコの腐朽菌に比べて桜を枯らす直接の原因にはなりにくいと言われています。  
ご参考↓  
[ウメノキゴケ 地衣類の不思議](#)

↑  
皮木(ひもく)の説明

幹に横に筋が入っているのが皮木で、そこから呼吸をしているとのこと。

## 具体的なアドバイスと総評



↑  
梢端(しょうたん)枯れ  
梢端を枯らすのは桜自身が  
生き残る為のリストラ活動



↑  
キノコが生えている(腐朽菌)  
腐朽菌が入っているので、枯れ枝は  
早めに剪定して健全部位まで切除  
(切り口には殺菌塗布剤を塗る)



↑  
充分な土量(地力)不足  
桜の大きさに見合う土量が不足する  
環境となっている。



## 総評:

桜は枝が枯れたり、幹が剥がれたりしていますが、樹木自身がバランスをとっています。つまり、地面の根の育成空間の土壤層が薄いんで、木が大きくなるに従って養えなくなってきてています。つまり養えるだけの土量(土の量と地力)がないんですね。

ですから枯らしているんです。会社で本体を守るためにリストラをしますが、それと同じことをやっています。

対応方法としては、枯れ枝は健全部位まで切除し、立ち枝、交差枝を剪定して整え、(切り口には殺菌塗布剤を塗っておく)バランスを保つように、植栽管理業者さんと相談し優先順位をつけ、計画的に対応していくことをおすすめします。



↑  
藤の花の咲きの悪い原や対応について相談あり。  
[「藤の花を咲かせる取り組みについて」もご参照。](#)



磯辺東住宅での事例紹介  
砂場をウッドデッキで塞ぎ、テーブルを置いた。春から夏にかけての剪定を控え藤づるを巻き上げ、秋口に強剪定、花が咲く前に花芽を残す剪定を行なうことで藤の花が咲くようになった。